



# 1. 計画の位置付け

本計画は、「小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画」に掲げる都市ビジョン「魅力・活力創造都市」の実現に向け、「魅力と活力ある中心市街地の創出」を図るため、小牧駅前広場等の再整備に関する方針や施策等を示すものです。

また、「小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画」のほか「小牧市都市計画マスタープラン」、「小牧市立地適正化計画」及び「小牧市中心市街地グランドデザイン」に即すとともに、各種関連計画と整合・連携を図るものとします。

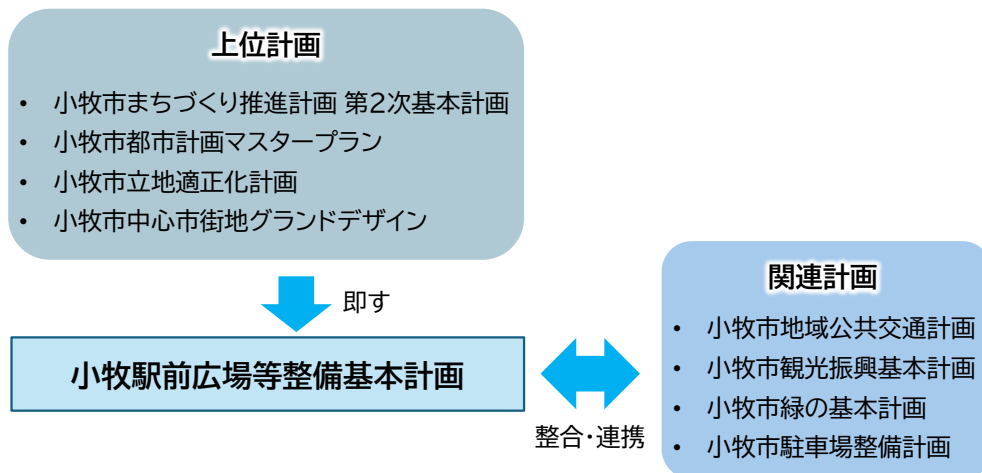


図 上位・関連計画の整理

# 2. 目指すべき方向性

上位計画に位置付けられた中心市街地におけるまちづくりの方向性などから、「～市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出～」を小牧駅前広場等の再整備に関する方向性とし、小牧駅は市の玄関口であり中心市街地に位置していることを踏まえ、鉄道、バス等の公共交通利用者のみならず多くの方が集い、憩いの場となるような整備を目指すこととします。

## 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画

- 魅力と活力ある中心市街地の創出

## 小牧市都市計画マスタープラン

- 小牧山や中心市街地としての魅力を活かし歩いて楽しめる活気あるまち

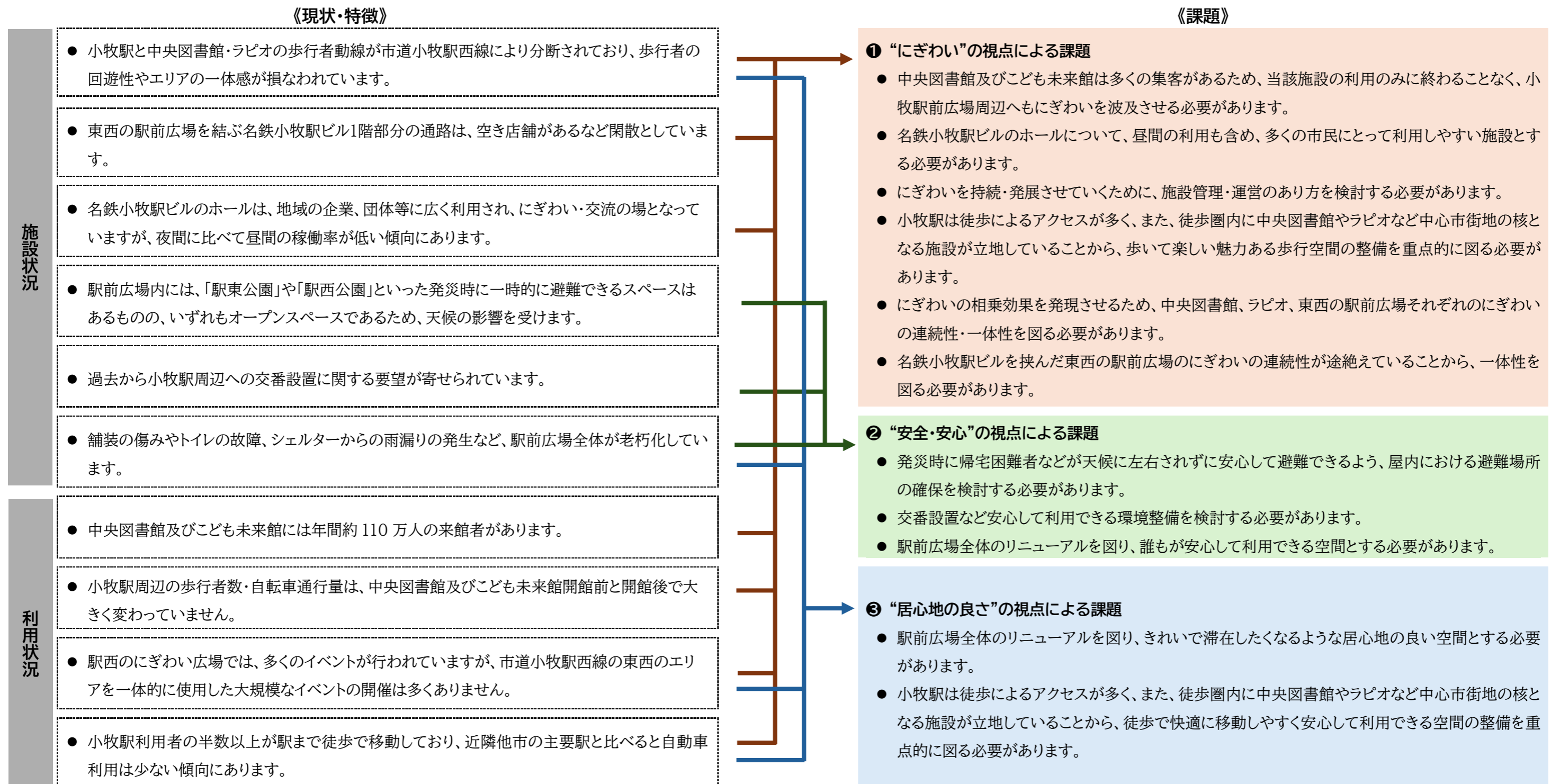
## 小牧市中心市街地グランドデザイン

- 小牧山や中心市街地の魅力を活かし歩いて楽しめる活気あるまち
- にぎわい広場や駅西公園等を活用し、魅力を創出します
- 小牧駅周辺における避難者及び帰宅困難者への支援
- 市民が集い、憩うことができる空間を整備します
- 芝生広場など人々が憩うことができる居心地のよいやすらぎのある空間整備
- 公共交通利便性向上のため、交通結節点機能を強化します

～ 市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出 ～

### 3. 目指すべき方向性を踏まえた小牧駅周辺の現状、特徴及び課題の整理

目指すべき方向性を踏まえ、“にぎわい”、“安全・安心”、“居心地の良さ”の視点から、小牧駅周辺の現状、特徴及び課題を整理します。



## 4. 基本方針

目指すべき方向性及び小牧駅周辺の現状・特徴・課題を踏まえ、整備の基本方針を示します。

### 方針1

### まちの活性化に資するにぎわいの創出

人々が集い、にぎわいのある中心市街地の形成に向け、「小牧の玄関口」に相応しく、まちの活性化に資するにぎわいを創出します。

#### 【方針に基づく主な施策】

- 人々が集い・交流できる空間づくり
  - イベントなど多目的な利用が可能なオープンスペースの設置
  - 屋内において集い・交流できる空間の維持・拡充
  - 交通結節点機能とにぎわい空間との隣接による相乗効果の発現
- にぎわい創出に向けた官民連携による施設管理・運営
- 駅とまちをつなぐ歩いて楽しめる空間づくり
  - 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成
  - シンボルロードとあわせたウォークアブルな空間づくり
  - まちの回遊の起点となる観光客等に向けた案内機能の充実
- 民間活力を活かしたにぎわい施設の設置
- 中央図書館・ラピオとの連続性・一体性のあるにぎわいの形成
  - 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成【再掲】



### 方針2

### 安全・安心で人に優しい空間づくり

小牧駅周辺において、通常時及び発災時ともに誰もが安全に・安心して利用できる駅前空間を形成します。

#### 【方針に基づく主な施策】

- 安全・安心な環境整備
  - 災害時における帰宅困難者の一次避難場所の維持・拡充
  - 交番設置を見据えた上での施設配置の検討
- 人に優しい駅前空間づくり
  - 初めて訪れる人や高齢者など誰もが分かりやすく安心して利用できる交通結節点の形成
  - バリアフリーを考慮した快適な歩行者動線の形成



人々が憩うことができる居心地が良くやすらぎのある空間を形成します。

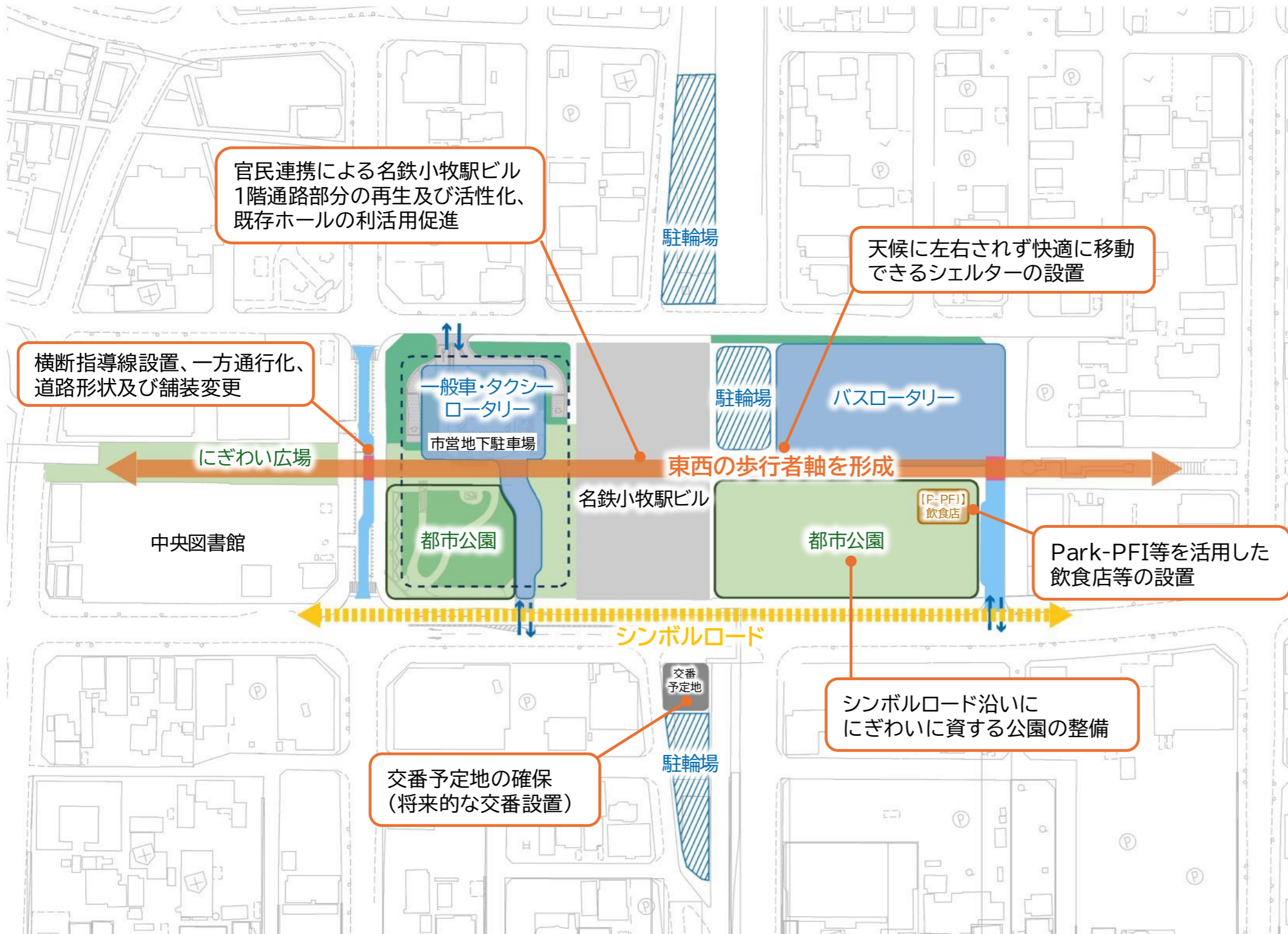
**【方針に基づく主な施策】**

- 居心地が良くやすらぎのある空間づくり
  - 訪れた人がやすらげるスペースの設置
  - 公共交通待合時に快適に過ごすことができる設備の整備
- 徒歩で快適に移動できる環境整備
  - 天候に左右されず快適に移動できるシェルターの設置
  - 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成【再掲】



## 5. 整備計画

基本方針に基づき、整備計画図を示します。



### ■ 東西の歩行者軸

- 市道小牧駅西線の一方通行化(北向き)、道路形状・舗装変更、横断指導線設置により、小牧駅からラピオまでの直線的な歩行者動線を確保するとともに、歩行者に優しい道路空間とすることで、人の流れを呼び込み、小牧駅・中央図書館・ラピオといった中心市街地の核となる施設で発現されるにぎわいに連続性・一体性をもたせます。
- 東西の駅前広場をつなぐ名鉄小牧駅ビル1階通路部分について、官民連携による再生及び活性化を図ることで、駅東西間のつながりを強化し、人の流れやにぎわいに連続性・一体性をもたせます。

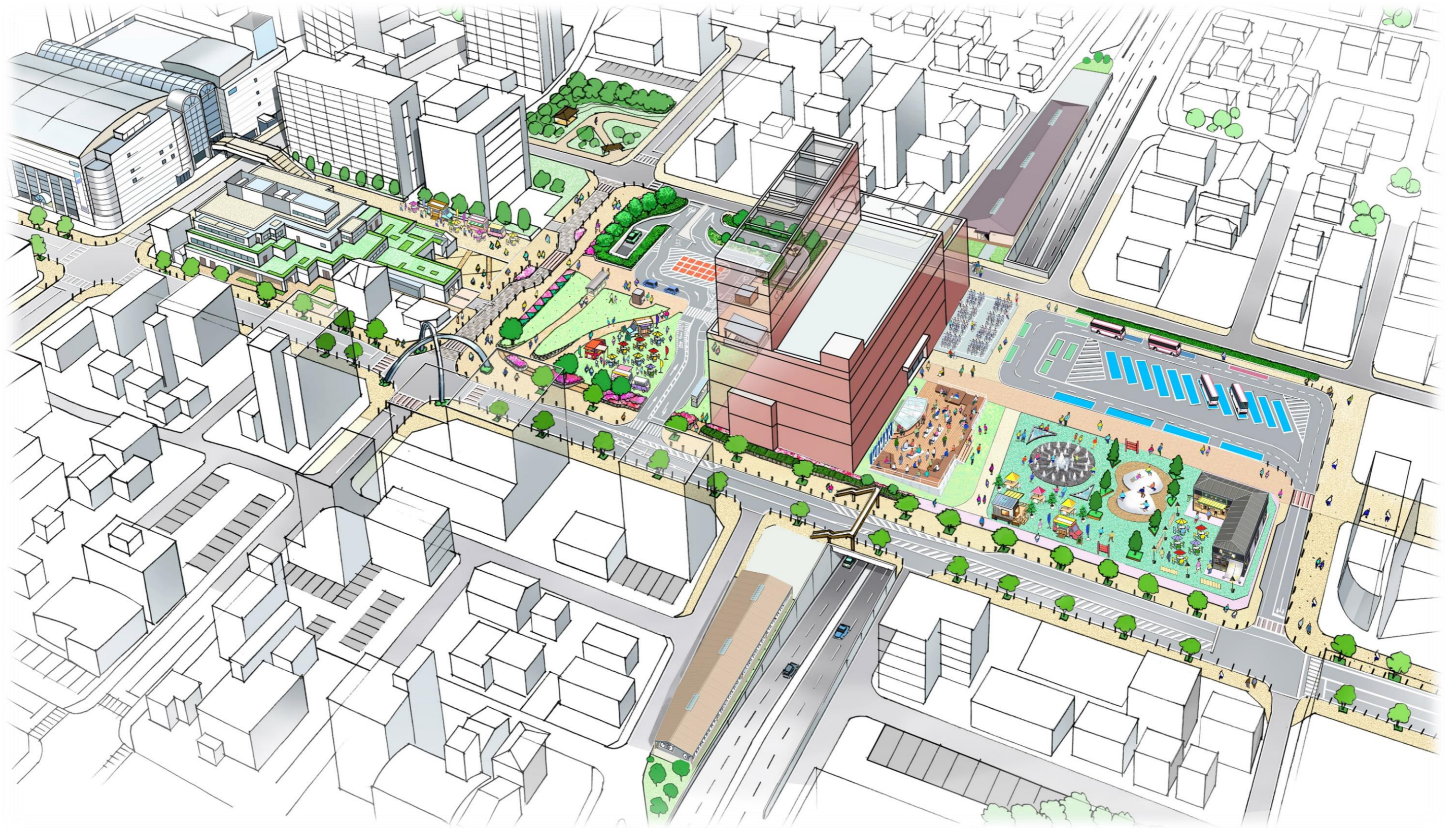
### ■ オープンスペース、バスロータリー

- シンボルロード沿いににぎわいに資する都市公園(オープンスペース)を配置することで、Park-PFI等による飲食店等の出店ニーズが高まるとともに、新たなにぎわいがまちなかへ波及することが期待できます。

### ■ 既存施設の活用

- 官民連携により名鉄小牧駅ビルの既存ホールの利活用を促進し、引き続き小牧駅前への集客を確保するとともに、屋内において人々が集い・交流できる空間を確保します。

【イメージパース図】



## 6. 計画の実現にむけて

### (1) 今後のスケジュール

本計画策定以後の今後のスケジュールについて整理します。

ただし、これらの実施時期については、財政状況などを踏まえながら検討・判断します。

なお、事業期間が長期にわたることとなるため、この間に、周辺環境や前提条件等の状況に大きな変化が生じた場合は、整備計画の内容やスケジュールの見直しも含めて柔軟に対応することとします。

	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
駅東駅前広場	設計等	バスロータリー整備、都市公園整備			
市道小牧駅西線	設計等	道路改良工事			
民間活力 (Park-PFI等)		手法検討	詳細・実施検討、事業者募集、店舗整備		
官民連携 (駅ビル通路)		協議・調整	再生・活性化に向けた整備・支援等		

### (2) 概算総事業費

本基本計画に基づく設計、工事費等の総事業費（ただし、官民連携による名鉄小牧駅ビル1階通路部分の再生及び活性化に要する費用を除く）として、概ね11億円を見込み、その財源については、一般財源のほか、国庫補助金や地方債により充当することを想定します。

また、事業規模が大きいことから、単一年度において財政負担が過度に集中することがないようなスケジュールとし、年度間の平準化を図ります。

なお、上記総事業費は計画策定時点での概算であり、建設コストや設計内容等により変動する可能性があります。

### (3) 整備後の施設管理・運営

「市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出」を目指す上では、整備内容だけではなく、整備後の施設管理・運営のあり方についても重要となります。

施設の維持管理と施設を活用した集客イベント等の企画・運営などをあわせて民間まちづくり団体等に事業委託し、民間的視点も取り入れながら、ハード面とソフト面の管理・運営を一体的に実施し、柔軟性や即時性の高い管理・運営が期待できることから、こうした官民連携による施設管理・運営方法について、施設整備の実施と並行して検討・調整を進めます。